

7. 点検評価と課題

昨年度に引き続き Graham Fleming 教授 (Univ. California, Berkeley, USA) と柳田敏雄特任教授 (阪大) に研究顧問をお願いし、所全体の研究評価、研究体制についての提言をいただいた。また UVSOR に関して Adam Hitchcock 教授 (McMaster University, Canada) に活動評価等をお願いした。

Graham Fleming 教授は光化学研究の世界的リーダーであり、また現在 UC, Berkeley 校の研究担当副学長を兼務されている。また Lawrence Berkeley National Laboratory (LBL) の副所長も務められた経験があり、世界の研究の動向、研究の運営、施策に精通している。Fleming 教授は 2012 年 10 月に約一週間、分子研に滞在し、各研究リーダー (PI; 教授および准教授) からのヒヤリングを行い、また国際性、世界における研究の位置づけなどの現状などを分析していただいた。Fleming 教授による研究所全 PI のヒヤリングと評価が 2010 年度、2011 年度と含めて完了した。Fleming 教授の評価、提言は、本 7 章にレポートとして掲載してある。

また Adam Hitchcock 教授は軟 X 線分光の分子科学研究の権威である。10 月初旬に UVSOR に関係する全研究グループのヒヤリングを行い、またすべての BL の設備の状況の評価をしていただき、特に UVSOR 光顕微分光装置の立ち上げに多大のアドバイスを頂いた。

Hitchcock 教授の UVSOR 施設の評価は (1) 所内グループが所内専用 BL で新しい分子科学の研究分野を切り開くスタイルは、国際的にも他にない UVSOR の大きな強みであること、(2) その特徴をさらに強化すべく、所内グループを増強すべきであり、(3) UVSOR 単独ではなく所内の各種装置も併用できる研究環境を生かした国際共同プログラムを戦略的に進めるべきであり、(4) UVSOR のようなリング型放射光源は時間分解実験に向いていないが、所内のレーザー利用研究者と協力して、時間分解の実験を手がけるべきであることなど、具体的で建設的な提言を頂いた。

これらの評価以外にも、グループリーダー (PI, 教授および准教授) による研究発表会 (所長ヒヤリング) を 2012 年 4 月に行い、研究顧問の柳田敏雄特任教授にも参加いただき、研究の評価と将来の方向に対する提言を頂いた。

(大峯 巖)